

ITUAJより

編集後記

「人工知能vs人間」の戦いがあちこちで起こっている中、囲碁で人工知能が勝つのはずっと先、というのが主な認識でした。将棋やチェスに比べて盤が広く手順も長い、駒の動きが決まっている将棋やチェスに比べ、囲碁は石の価値が状況や場面ごとに変化していくのでコンピュータに認識させにくい、といった背景があったからです。しかし2016年、人工知能アルファ碁が世界トップクラスの棋士を次々と打ち破りました。それは、これまで同じ計算を10万回やっても、1回目と10万回目のやり方は基本的に同じだった人工知能が、認識・学習できるようになった、「ディープラーニング」という技術が大きな要因です。

日本の人工知能研究第一人者である松尾豊先生に、5月の「世界情報社会・電気通信日のつどい」でご講演いただいた、「人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの」を記事化しました。今人工知能ができる事、これからできるようになる事などが、分かりやすくひもとかれています。ぜひご一読ください。

ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら https://www.ituaj.jp/?page_id=793

編集委員

- | | | |
|-----|--------|-----------------|
| 委員長 | 亀山 渉 | 早稲田大学 |
| 委員 | 白江 久純 | 総務省 情報通信国際戦略局 |
| 〃 | 稲垣 裕介 | 総務省 情報通信国際戦略局 |
| 〃 | 三宅 雄一郎 | 総務省 情報通信国際戦略局 |
| 〃 | 網野 尚子 | 総務省 総合通信基盤局 |
| 〃 | 岩田 秀行 | 日本電信電話株式会社 |
| 〃 | 中山 智美 | KDDI株式会社 |
| 〃 | 福本 史郎 | ソフトバンク株式会社 |
| 〃 | 津田 健吾 | 日本放送協会 |
| 〃 | 山口 淳郎 | 一般社団法人日本民間放送連盟 |
| 〃 | 吉田 弘行 | 通信電線線材協会 |
| 〃 | 中兼 晴香 | パナソニック株式会社 |
| 〃 | 牧野 真也 | 三菱電機株式会社 |
| 〃 | 東 充宏 | 富士通株式会社 |
| 〃 | 飯村 優子 | ソニー株式会社 |
| 〃 | 江川 尚志 | 日本電気株式会社 |
| 〃 | 岩崎 哲久 | 株式会社東芝 |
| 〃 | 田中 茂 | 沖電気工業株式会社 |
| 〃 | 三宅 滋 | 株式会社日立製作所 |
| 〃 | 斧原 晃一 | 一般社団法人情報通信技術委員会 |
| 〃 | 菅原 健 | 一般社団法人電波産業会 |
| 顧問 | 小菅 敏夫 | 電気通信大学 |
| 〃 | 齊藤 忠夫 | 一般社団法人ICT-ISAC |
| 〃 | 橋本 明 | 株式会社NTTドコモ |
| 〃 | 田中 良明 | 早稲田大学 |

編集委員より

バリアフリーを身近に考える



株式会社日立製作所

み や げ し げ る
三 宅 滋

突然ですが、みなさんは補聴器にどんな印象を持たれるでしょうか？小型の拡声器と考えるかたも多いと思います。しかし、最近のデジタル補聴器は周波数帯域を圧縮・加工したり、左右の補聴器が連動して音源の方向を意識できるようにしたりと、様々な機能が実装されています。さらに、補聴用の機器として、耳の中にプローブを挿入して聴覚神経に直接電気刺激を与えることで音を伝える人工内耳も普及してきました。人工内耳の装用には、体内に埋め込むインプラントや体外で音声処理をするコントローラといった機器の費用と手術などの治療の費用を合わせて400万円ほどかかります。幸いにも、人工内耳装用術は健康保険の対象となっており、高額療養費制度の適用もあります。このように技術の発達によって、聴覚障害のかたにも音声によるコミュニケーションの可能性が少しずつ高くなりました。

私的なことですが、4歳になる私の息子は重度難聴で、生後5か月から補聴器を装用し、2歳10か月には右耳に人工内耳装用手術を受けました。先進の技術に頼っても、音声言語の獲得にはたいへん苦勞しています。恥ずかしながら、このように身内に障害者を持つまで、ハンディキャップを持つかたのご苦勞を実感することができませんでした。

近年ではバリアフリー社会の実現に向けて、様々な施策が語られています。国際標準化の世界でもISO/IEC Guide 71:2014 Guide for addressing accessibility in standardsがあります。国内でも対応するJIS Z 8071「規格におけるアクセシビリティ配慮のための指針」が今年初めに改訂され、対象を高齢者や障害者だけでなく、日常生活になんらかの不便を感じる人々へと拡大しています。国際標準化活動の一部を担うものとして、アクセシビリティへの配慮によるバリアフリー社会の実現に少しでも貢献できればと思います。

ITUジャーナル

Vol.47 No.9 平成29年9月1日発行／毎月1回1日発行

発行人 小笠原倫明

一般財団法人日本ITU協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11

BN御苑ビル5階

TEL.03-5357-7610(代) FAX.03-3356-8170

編集人 森 雄三、大野かおり、石田直子

編集協力 株式会社クリエイト・クルーズ

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会